

もも管理特報 No. 2

令和2年3月25日
 みな穂もも振興会
 みな穂農業協同組合
 新川農林振興センター

○3月下旬～4月 ももの作業チェック表

作業内容	作業のポイント	実施適期	実施予定日 (自己記入)	実施日 (自己記入)
摘蕾	<ul style="list-style-type: none"> 慣行は70～80%程度、富山型もも栽培体系は90%摘蕾する 花粉のない品種（「川中島白桃」等）は上向きの蕾を軽く落とす程度とする。 主枝・亜主枝先端や伸ばしたい枝は全て摘蕾 定植1～2年目の樹は全て摘蕾する 	3月下旬～4月上旬		
人工授粉	<ul style="list-style-type: none"> 花粉の無い品種（「川中島白桃」、「なつき」等）に対して実施する 50%程度開花時および80%程度開花時に2回程度実施する 晴れた気温の高い日に行う 	開花期 1. 生育状況の開花予測を参照		
灰星病・せん孔細菌病罹病枝の切除	<ul style="list-style-type: none"> 落花期以降に症状が発見しやすくなる 症状のある部分の枝を切除し、園地外で処分する 	開花期～落花期以降 2. 病虫害防除の(1)参照		
防除の実施	<ul style="list-style-type: none"> 散布ムラが生じないように丁寧に散布する 	2. 病虫害防除の(2)参照		

1 生育状況について

- 3/19時点の「あかつき」の開花始めは、平年より6日早い4/5頃と予想されている。
- 新潟気象台発表の1か月予報（3/19）では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、開花時期がさらに早まる可能性がある。
- そのため、今後の気温や生育状況に注意し、計画的な作業に努める。

※開花予想は、富山県園芸研究所ホームページで公開しています。参考にしてください。
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/>

果樹研究センター開花予想（3/19時点）

年次	あかつき	
	開花始期	開花盛期
2020年(予測)	4/5	-
2019年	4/7	4/12
平年	4/11	4/14

※ 2019年、平年は果樹研究センター実測値

2 病虫害防除

(1) 耕種的防除の実施について

【灰星病】

- 花腐れ症状（花卉が褐色になり腐る症状）は見つけ次第切除し園地外で処分する。

【せん孔細菌病】

- 芽の枯れ込み、葉芽の奇形・不発芽、枝が黒～褐色に変色等の春型枝病斑が疑われる枝は切除し、園地外で処分する。



↑花腐れ症状
 春型枝病斑

(2) 薬剤散布について

- ・4月は、せん孔細菌病、灰星病の重要防除時期である。下記の時期を目安に、開花状況に合わせて防除を実施する。また、適正な散布量により効果的な防除に努める。

【結実樹】

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100 ^{リットル} 当たり 薬剤量	10a あたり 散布量	防除 実施日 (自己記入)
2	4/2～4頃 開花直前	せん孔細菌病	ムッシュボルドーDF ※1	500倍	200g	350 ^{リットル}	
3	4/10～12頃 「川中島白桃」 受粉後	せん孔細菌病 灰星病	アグリマイシン-100 ロブラール500アクア (展着剤 マイリノー)	1,500倍 1,000倍 20,000倍	66g 100cc 5cc	350 ^{リットル}	
特 散	4月下旬頃まで 粗皮の粗くない 若い樹が対象	コスカシバ (日焼け防止)	ガットサイドS ※2	1.5倍	樹幹部及び主枝に 塗布		

※縮葉病の被害葉は見つけ次第、基部から摘み取る。

※1 せん孔細菌病の多発園では、展着剤（アピオンE、1,000倍）を加用する。

※2 成分MEPを含む殺虫剤（ガットサイドS、トラサイドA乳剤、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サンチュコートS）の樹幹処理は、収穫後～収穫までいずれかの剤1回のみを使用とする。

【未結実樹；植付け1～2年目】

回数	散布時期	対象病害虫	薬剤名と希釈倍率		水100 ^{リットル} 当たり 薬剤量	10a あたり 散布量	防除 実施日 (自己記入)
2	4/2～4頃 開花直前	せん孔細菌病	ムッシュボルドーDF ※1	500倍	200g	100 ^{リットル}	
3	4/10～12頃	せん孔細菌病	アグリマイシン-100 (展着剤 マイリノー)	1,500倍 20,000倍	66g 5cc	100 ^{リットル}	
特 散	4月下旬頃まで	コスカシバ (日焼け防止)	ガットサイドS ※2	1.5倍	樹幹部及び主枝に 塗布		

※縮葉病の被害葉は見つけ次第、基部から摘み取る。

※1 せん孔細菌病の多発園では、展着剤（アピオンE、1,000倍）を加用する。

※2 成分MEPを含む殺虫剤（ガットサイドS、トラサイドA乳剤、ラビキラー乳剤、ガットキラー乳剤、サンチュコートS）の樹幹処理は、収穫後～収穫までいずれかの剤1回のみを使用とする。

農薬散布にあたっては、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください！

3 摘蕾について

- ・ 現在、花蕾が丸くふくらんできており、摘蕾の作業適期を迎えている。
- ・ 慣行の摘蕾を行う場合は、全体の70%程度の蕾を除去する。
- ・ 富山型モモ栽培体系を実施している場合は、摘蕾、摘花、早期摘果により4月中旬頃までに全花蕾の90%を除去する。

<注意点>

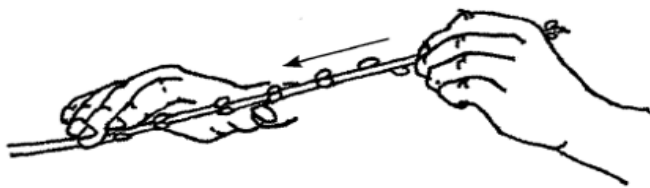
- ・ 「川中島白桃」等、花粉を持たない品種は上向きの蕾を軽く落とす程度とする。
- ・ 葉芽を傷つけないように注意する。
- ・ 1～2年目の苗木、成木の主枝や垂主枝先端から50cm程度はすべて摘蕾する。
- ・ 上向きや真下向きの蕾を中心に除去し、横～斜め下向きの蕾を残す。

【摘蕾で残す蕾の数の目安】

果枝長	慣行	富山型もも栽培体系
短果枝	先端付近に1～2個	先端付近に1個
中果枝	中央部に2～3個	中央部に1～2個
長果枝	中央部に4～8個	中央部に3～4個
花蕾1個当たりの枝の長さ	8cm	15cm

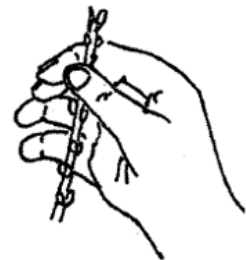
【実施方法（やり方）】

①長果枝、中果枝









- ・ 枝の上部を中指、人差し指で枝の先端から基部に向かってしごき落とす。


②短果枝



- ・ 指先でもむように落とす。

【結果枝別の残す花蕾（果実）の数と位置（果樹研セ作成）】

栽培体系	残す花蕾（果実） 1個あたりの枝 の長さ(cm/個)	結果枝の種類（果枝長cm）		
		短果枝 （15cm未満）	中果枝 （15～30cm）	長果枝 （30cm以上）
富山型 もも 栽培体系	15	先端付近に1個	中央部に1～2個	中央部に3～4個
				
		先端付近に1～2個	中央部に2～3個	中央部に4～8個
慣行 栽培体系	8	先端付近に1～2個	中央部に2～3個	中央部に4～8個
				

 は残した花蕾。

4 人工受粉

- 花粉のない品種（「川中島白桃」、「なつき」等）では人工受粉が必要である。受粉は開花率が50%程度と80%程度に達した時を中心に、2回程度実施する。

【実施方法（やり方）】

- ①花粉がある品種（開花・開葎しているもの）に毛バタキ（鳥の羽根等、花粉が付きやすいものが適当）等で軽く触れる。
- ②毛バタキに花粉（黄色い粉）が付着するのを確認し、花粉のない品種のめしべを同じ毛バタキで軽くなぞる。

